

供給体制整わず

長岡の企業社長「かなり厳しい」

東日本大震災で被災した食事制限やアレルギーのある人を支援するため、腎機能が弱い人など向けの低タンパク米飯などを福島、宮城、岩手3県へ届けたエコ・ライス新潟（長岡市）の社長の阿部信行さん（53）が15日未明、長岡に戻った。こうした食品の供給体制がほとんど整っておらず、多くの被災者が困惑している状況を語った。

阿部さんは13日から、名古屋市のNPO法人メンバーらと3県に入り、福島、仙台、盛岡各市で現地の医療機関や患者団体に物資を手渡した。

各市のスーパーなどでは食品が品薄になり、中でも食事制限者が食べられる商品はかなり少ない状況という。「今のところ『飢え』というほどではないにせよ、このまま供給の計画が立たないままだと、かなり厳しい状況になってしまおう」と阿部さん。また、医療関係者からは、人工透析の受け入れ態勢が整わず深刻という訴えも相次いだという。

阿部さんは「2、3日のげば何とか助けられる災害とは根本的に違おうと強く感じた。物資を集められ次第、また届けに行きたい」と話した。